

令和5年度東京大学附属図書館特別展示

図書館に眠る 震災の記憶

会期：令和5(2023)年8月25日（金）－10月25日（水）
会場：東京大学総合図書館（本郷キャンパス）
展示スペース及びオープンエリア

展示資料リスト

No	資料名	請求記号
1 *	足利學校事蹟考	K20:977c
2 *	蟲譜図説	T86:181
3 *	鑑薬精義	V30:110
4 *	焼残本（和書）大正十二年以前 [図書原簿] 焼残本（洋書）大正十二年以前 [図書原簿]	—
5	関東大震災畫帖	BS:6
6	東京帝國大學附屬圖書館復興帖：大正十二年より昭和四年に 互る復興帖報告及圖面	K40:765
7	太陽 = The sun 29巻12号	ZA:29
8	改造 5巻10号	ZA:27
9	經濟往来 9巻11号	ZN:228
10	橡の實	E26:1264
11	東京大震火災絵巻 震災前の巻，震災後の巻	S40:347
12	高台より見たる焼野と化したる大東京：パノラマ式撮影	S40:343
13 *	大正12年末現在新報告材料 焼失図書・残存図書	II-3-5-1923
14 *	焼失貴重図書・災後購入重要図書・災後寄贈重要図書 大正15年1月調	II-4-2-5
15 *	書籍等の焼灰 他	—
16 ◎	甲午日記：天保五年正月吉日（馬琴日記）	A00:4613
17 ◎	稿本 自然眞營道 100巻序1巻（存11巻序1巻）	A00:4305

（パネル展示）

18 *	東京帝国大学平面図 大正6年，大正13年	VI-1-5
19	大正震災志 附図（東京市火災延焼状況図）	S40:350
20 *	旧図書館、震災で崩れた建物写真 他	—

* 通常是非公開

◎ ホームカミングデイ開催日(10/21)のみ展示

大正12（1923）年9月1日に発生した大正関東地震は、「関東大震災」と呼ばれる未曾有の大災害を引き起こし、東京大学も壊滅的な被害を受けました。特に図書館は、地震によって発生した火災により全焼し、ほとんどすべての蔵書が焼失しました。

今年は、その関東大震災から100年の節目の年にあたります。本展では、震災によって失われた蔵書の記録や奇跡的に救われた資料などから、東京大学附属図書館にもたらされた甚大な被害をあらためて振り返ります。

展示資料のご紹介



No.1-3：火災により一部が焼けた資料



No.18：震災前と震災後の
東京帝国大学平面図（パネル展示）

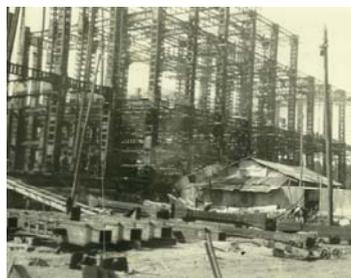


No.4：震災以前に図書館
に受け入れられた資料のうち、
焼失を免れた図書の台帳
（図書原簿）



◀ 旧図書館(震災前)

▼ 図書館書庫の残骸



▲ 新図書館の建設



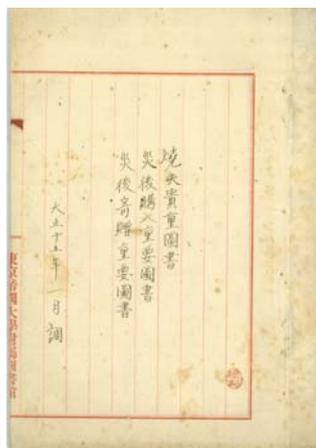
▲ 大学構内の被災写真

No.20：写真で見る震災前後の図書館及び大学内の
被災状況（パネル展示）



令和5年度東京大学附属図書館特別展示
図書館に眠る震災の記憶

主 催 東京大学附属図書館
発行日 令和5（2023）年8月25日
編 集 東京大学附属図書館所蔵資料展示委員会
発 行 東京大学附属図書館
〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1
電話 03-5841-2640（情報サービス課）



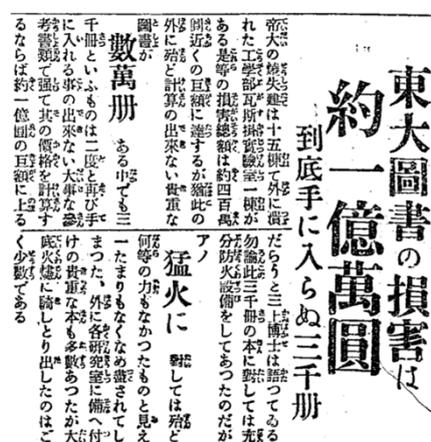
No.14：焼失した貴重図書や、震災後に購入した重要図書等の目録



No.11：災害の様子を伝える図書（『東京大震災火災絵巻』）



No.19：東京市の火災延焼図（『大正震災志 附図』パネル展示）



オープンエリアでは、震災時の様子や復興状況を伝える新聞や文学作品等をパネルでご紹介します

【参考文献】

- ・石井正己著『文豪たちの関東大震災体験記』（小学館101新書 175）、小学館、2013
- ・『東京大学百年史』通史2、部局史4（東京大学、1984-1987）

※『東京大学百年史』は東京大学機関リポジトリで全文ダウンロードが可能です

- ・ 東京大学文書館に協力をいただき、文書館所蔵「大正十二年十一月東京帝国大学構内及ビ附属航空研究所火災報告 附図(別冊)添附」（内田祥三関係資料）をパネル展示しています。
- ・ オープンエリアでは、地震研究所による関東大震災に関する情報や、研究所の活動をまとめたパネルを展示しています。

展示資料全点と関連情報をウェブ上で見ることができる電子展示も公開しています。



<https://jpsearch.go.jp/gallery/utokyo-shinsai2023>

東京大学で開催する「関東大震災100年」関連イベント等の情報を発信しています。



ごあいさつ

東京大学附属図書館では、毎年、全学で所蔵する貴重な資料を学内外の皆様にご覧いただくため特別展示を行ってききましたが、総合図書館の耐震改修工事（平成27（2015）年ー令和2（2020）年）とコロナ禍により、やむを得ずしばらく休止しておりました。昨年、8年ぶりに再開し、関東大震災後100年にあたる本年は「図書館に眠る震災の記憶」を開催いたします。

本展では、震災によって失われた蔵書の記録や奇跡的に救われた資料などをおして、東京大学附属図書館にもたらされた甚大な被害を改めて振り返ります。

東京大学附属図書館は、大正12（1923）年の関東大震災によって建物は全壊し、ほぼすべての蔵書が灰燼に帰する大きな被害を受けました。現在の建物は、ジョン・ロックフェラーJr.氏からの寄付を受けて昭和3（1928）年に再建したものです。内田祥三（工学部教授兼営繕課長、後に総長）による設計は鉄筋コンクリート造りの頑強な構造を備え、21世紀の耐震基準に当てはめても外観を損なうような補強は必要ありませんでした。二度と蔵書を失わない、東大の学問を守り抜く、という強い意志の表れであると感じます。

本展では、火災に遭いながらも焼け残った蔵書や、館外に貸し出されていたために難を逃れた貴重な図書を、総合図書館が受けた被害を物語る写真や文書、関連資料とともにご覧いただきます。また、文学者や旧制第一高等学校生徒の手記などをパネル展示でご紹介します。

本展を通じて、地震被害への認識を新たにし、防災について改めて考える機会としていただくとともに、東京大学の学問の礎を守ってきた図書館の歴史を思い、デジタル化と人工知能の時代の新しい図書館を考えていただく契機となれば幸いです。

令和5年8月
東京大学附属図書館長
坂井 修一